

に“刺激の節約効果”について。第104回北陸精神神経学会，1986，6，金沢。

8) 清水昭規，倉知正佳，山口成良，鳥居方策，伊崎公徳：精神分裂病の発病年齢と家族歴。第104回北陸精神神経学会，1986，6，金沢。

9) 倉知正佳，倉田孝一：セロトニン代謝からみた抗うつ薬の薬力学。第8回中部日本神経精神薬理学会，1986，7，富山。

10) 倉田孝一，木戸日出喜，山口成良，井上正雄：Maprotiline の TDM について。第8回中部日本神経精神薬理学会，1986，7，富山。

11) 木戸日出喜，倉田孝一，山口成良，横川弘一，市村藤雄：てんかん発作重積患者に対するフェニトインによるコントロールマニュアル。第8回中部日本神経精神薬理学会，1986，7，富山。

12) 小山善子，山口成良，倉知正佳，稲村 恵，伊藤清吾，能登谷晶子，鈴木重忠：右利き交叉性失語7例の検討。第10回日本神経心理学会，1986，9，姫路。

13) 内山千鶴子，呉藤珠美，内山伸治，宗本滋，木村 明，平松 博，倉知正佳：左の一側性失読を呈した脳梁損傷の2例——特に漢字と仮名の読みの差——。第10回日本神経心理学会，1986，9，姫路。

14) 奥田忠行，林 史朗，角田美鈴，松田正毅，高橋 薫，桜川信男，数川 悟，小西 徹：携帯用長時間脳波記録装置 Ambulatory EEG (Medidata M-300) のアーチファクトの検討。第33回日本臨床病理学会総会，1986，10，伊勢。

15) Kurachi, M., Suzuki, M., Kawasaki, Y., Kobayashi, K., Shimizu, A. and Yamaguchi, N.: Regional cerebral blood flow in patients with schizophrenic disorders. The Third International Symposium on Cerebral Dynamics, Laterality and Psychopathology, 1986, 10, Hakone.

16) 内山千鶴子，内山伸治，鈴木重忠，進村園生，呉藤珠美，倉知正佳：音声言語と文字言語の半球優位性が分離していると考えられる1例。第10回日本失語症学会，1986，10，東京。

17) 三辺義雄，谷井靖之，葛野洋一，堤 学，中村一郎：低頻度刺激キンドリング現象における“刺激の節約効果”について。第16回日本脳波筋電図学会，1986，11，筑波。

18) 島田雅子，谷 守正，野田真紀子：Münchhausen 症候群の一女児例。第12回富山県小児科集談会，1986，11，富山。

19) 三辺義雄，谷井靖之，葛野洋一，堤 学，中

村一郎，倉知正佳：低頻度電気刺激によるキンドリング形成(I)，キンドリング形成後の安定的発作誘発について。第20回日本てんかん学会，1986，11，東京。

20) 三辺義雄，谷井靖之，葛野洋一，堤 学，中村一郎，倉知正佳：低頻度電気刺激によるキンドリング形成(II)，抗てんかん剤の急性効果について。第20回日本てんかん学会，1986，11，東京。

21) 木戸日出喜，岸谷和之，長谷川 充，坂本宏，山口成良，倉田孝一，三辺義雄，佐野 譲：Spike-Wave Stupor に対する発作間欠期維持薬物療法。第20回日本てんかん学会，1986，11，東京。

放射線医学

教授	柿下正雄
助教授	瀬戸光夫
講師	石崎良夫
講師	二谷立介
講師	亀井哲也
助手	古本尚文
助手	手 瀧 邦康
助手	手 関 恭宏
助手	手 麻生正邦
助手	手 征矢敏雄
助手	手 中嶋愛子

◆ 著 書

1) 瀬戸 光：循環器 V. RI による右室・左室機能評価法 B. 平衡時法。「最新臨床核医学」久田欣一他編，290—297，金原出版社，1986。

2) 瀬戸 光：腎診断の進歩 8・1 レノグラフィ，腎機能。「最新臨床核医学・臨床応用編」永井輝光他編，373—383，朝倉書店，1986。

3) 二谷立介：循環器 V. RI による右室・左室機能評価法 A. 第1回循環時法。「最新臨床核医学」久田欣一他編，283—290，金原出版社，1986。

◆ 原 著

1) Kamei T., Asou M., Taki K., Seto H., Futatsuya R., Ishizaki Y., Furumoto N., Soya T. and Kakishita M.: Evaluation of the degree of severity in liver cirrhosis by computed tomography. Radiat. Med. 3: 197—203, 1985.

2) 瀬戸 光，二谷立介，瀧 邦康：巨大原発性副甲状腺腫による代謝性骨疾患の定量的評価。臨床核医学 19: 5—7, 1986。

3) 瀬戸 光：骨シンチグラフィ(骨核医学)。診

断と治療 74:739—750, 1986.

4) 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 柿下正雄, 山田 均: 三相骨シンチグラフィによる多発性脊髄血管病変の診断. 核医学画像診断 1:30—31, 1986.

5) 二谷立介, 瀬戸 光, 亀井哲也, 柿下正雄: タリウム心筋 SPECT で心筋梗塞とまぎらわしいアーチファクトをきたした1例. 核医学画像診断 1:38—39, 1986.

6) 古本尚文, 石崎良夫, 柿下正雄: 肺癌における右中間気管支幹後壁の検討. 日医放会誌 46:865—872, 1986.

7) 日原敏彦, 古本尚文, 亀井哲也, 羽田陸朗, 瀬戸 光, 石崎良夫, 柿下正雄, 三輪淳夫, 津田基晴: 皮膚悪性血管内皮腫の肺転移にて血気胸を呈した1例. 日本胸部臨床 45:863—867, 1986.

8) 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 征矢敏雄, 柿下正雄, 利波修一, 安井正一, 河西由美子: モノクローナル抗体を使用した β_2 -microglobulin 測定用キット「 β_2 -マイクロ・RIA KIT」の基礎的, 臨床的検討——ポリクローナル抗体キットとの比較——. 医学と薬学 16:1315—1323, 1986.

9) 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 関 宏恭, 小山信二: $^{201}\text{TlCl}$ による下肢筋肉血流の定量的評価—血管再建術前後の評価—. 核医学画像診断 1:60—62, 1986.

10) 安井正一, 利波修一, 瀬戸 光, 二谷立介, 柿下正雄: 核医学画像アーチファクト: エネルギーウィンドの不適切による欠損像. 核医学画像診断 1:78—80, 1986.

◆ 総 説

1) 亀井哲也, 瀬戸 光, 瀧 邦康, 柿下正雄, 前田正敏, 本田 昂, 越村三郎: モノクローナル抗体による腫瘍の放射免疫学的局在診断および治療への応用. 臨床免疫 18:877—885, 1986.

◆ 学会報告

1) 二谷立介, 瀬戸 光, 亀井哲也, 柿下正雄, 和田 攻, 余川 茂, 篠山重威: First-pass Radionuclide Angiocardigraphy における位相・駆出率同時表示カラーヒストグラム. 日本核医学会第13回中部地方会, 1986, 2, 名古屋.

2) 瀬戸 光, 井原典成, 二谷立介, 亀井哲也, 征矢敏雄, 瀧 邦康, 柿下正雄: デュアルトレーサー法による幼若ラット代謝性骨疾患モデルの骨病変の定量的評価(第二報). 日本核医学会第13回中部地方会, 1986, 2, 名古屋.

3) 石崎良夫, 征矢敏雄, 麻生正邦, 瀧 邦康,

古本尚文, 亀井哲也, 二谷立介, 瀬戸 光, 柿下正雄, 羽田陸朗, 加藤 博, 唐木芳昭, 藤巻雅夫: 食道癌の術前照射の検討. 日本医学放射線学会第90回中部地方会, 1986, 2, 名古屋.

4) 征矢敏雄, 亀井哲也, 麻生正邦, 瀧 邦康, 古本尚文, 二谷立介, 石崎良夫, 瀬戸 光, 柿下正雄, 羽田陸朗, 金田隆志, 寺田為義: Angiomyolipoma の1例. 日本医学放射線学会第90回中部地方会, 1986, 2, 名古屋.

5) 羽田陸朗, 倉西 誠, 柿下正雄, 瀬戸 光, 石崎良夫, 二谷立介, 亀井哲也, 古本尚文: CRT 診断についての臨床的検討(胸部の CRT 診断について). 第45回日本医学放射線学会総会, 1986, 4, 東京.

6) 麻生正邦, 亀井哲也, 石崎良夫, 柿下正雄: タンパク変性の水プロント緩和時間に及ぼす影響の検討. 第45回日本医学放射線学会総会, 1986, 4, 東京.

7) 瀬戸 光, 井原典成, 二谷立介, 亀井哲也, 征矢敏雄, 瀧 邦康, 柿下正雄: デュアルトレーサー法による代謝性骨疾患モデルラットの骨病変の定量的評価—骨摂取率による鑑別診断と骨 X線像との比較—. 第45回日本医学放射線学会総会, 1986, 4, 東京.

8) 亀井哲也: 食道癌に対する RALS 治療経験. 第4回北陸放射線治療談話会, 1986, 6, 金沢.

9) 二谷立介, 瀬戸 光, 亀井哲也, 古本尚文, 関 宏恭, 瀧 邦康, 征矢敏雄, 中嶋愛子, 羽田陸朗, 柿下正雄, 小山信二, 龍村俊樹, 山本恵一: 肺癌 Staging における ^{67}Ga シンチグラフィの役割. 日本核医学会第14回中部地方会, 1986, 7, 富山.

10) 瀧 邦康, 関 宏恭, 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 柿下正雄, 小西 徹: IMP による小児てんかんの SPECT 像の臨床的有用性の検討. 日本核医学会第14回中部地方会, 1986, 7, 富山.

11) 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 征矢敏雄, 瀧 邦康, 柿下正雄, 熊谷道朝: X線コンピュータ断層撮影法による椎体海綿骨の骨量の定量的評価(基礎的検討)—ファントム実験—. 日本医学放射線学会第91回中部地方会, 1986, 7, 富山.

12) 征矢敏雄, 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 瀧 邦康, 柿下正雄, 小桜吉宏, 安達登志樹, 石崎良夫: X線コンピュータ断層撮影法による椎体海綿骨の骨量の定量的評価(臨床的検討)一年齢, 性差による骨量の変化—. 日本医学放射線学会第91回中部地方会, 1986, 7, 富山.

13) 古本尚文, 亀井哲也, 柿下正雄, 若狭林一

郎, 林田修一, 牛島 聡, 清崎克美: Lesser sac 原発 mesothelioma の 1 例. 第40回北陸医学会総会放射線科・核医学科分科会, 1986, 9, 金沢.

14) 館崎慎一郎, 辻 陽雄, 伊藤達雄, 加藤義治, 松井寿夫, 石崎良夫, 亀井哲也: 転移性脊椎腫瘍の治療方針. 第24回日本癌治療学会総会, 1986, 10, 松江.

15) Kamei T., Honda T., Koshimura S.: **In Vivo** localization of ¹²⁵I-labeled anti-CEA monoclonal antibody in a CEA-producing tumor; comparison with polyclonal antibody. 日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

16) 瀬戸 光: シンポジウム「骨核医学画像診断の現況と問題点」代謝性骨疾患. 第22回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1986, 10, 東京.

17) 亀井哲也, 瀬戸 光, 瀧 邦康, 二谷立介, 関 宏恭, 征矢敏雄, 中嶋愛子, 古本尚文, 柿下正雄: ¹²⁵I 標識 CEA モノクローナル抗体の CEA 産生腫瘍における局在一ポリクローナル抗体との比較. 日本核医学会第15回中部地方会, 1986, 11, 岐阜.

18) 関 宏恭, 瀬戸 光, 二谷立介, 征矢敏雄, 亀井哲也, 柿下正雄: T1—201 による安静時下肢筋肉血流シンチグラフィ: 血管再建術前後の定量的評価 (第1報). 日本核医学会第15回中部地方会, 1986, 11, 岐阜.

19) 征矢敏雄, 瀬戸 光, 二谷立介, 亀井哲也, 関 宏恭, 瀧 邦康, 中嶋愛子, 古本尚文, 柿下正雄, 石崎良夫: シングルエネルギー X 線コンピュータ断層撮影法による椎体海綿骨の骨量の定量的評価: 健康者の年齢, 性差別の正常値の検討. 日本医学放射線学会第92回中部地方会, 1986, 11, 岐阜.

20) 羽田陸朗, 倉西 誠, 嘉戸祥介, 伊藤 一, 吉田 寿, 柿下正雄, 小林 巧, 松永満佐巳, 小宗路直: 人体模式図も取り扱える胸部画像診断レポート・システムの開発. 日本医学放射線学会第92回中部地方会, 1986, 11, 岐阜.

21) 古本尚文, 亀井哲也, 中嶋愛子, 征矢敏雄, 瀧 邦康, 関 宏恭, 二谷立介, 瀬戸 光, 柿下正雄, 石崎良夫: 食道癌に対する動注療法と放射線治療併用の有効性について. 日本医学放射線学会第92回中部地方会, 1986, 11, 岐阜.

22) 瀬戸 光, 井原典成, 二谷立介, 亀井哲也, 征矢敏雄, 瀧 邦康, 柿下正雄: デュアルトレーサー法による代謝性骨疾患モデル未成熟ラットの骨病変の定量的評価 (第2報) —全身残留率による鑑別診断と骨 X 線像との比較—. 第26回日本核医学会総会,

1986, 11, 鴨川.

外 科 学 (1)

教 授	山 本 惠 一
助 教	上 山 武 史
講 師	龍 村 俊 樹
講 師	永 井 晃 樹
助 手	富 川 正 樹
助 手	笠 島 学
助 手	津 田 基 晴
助 手	湊 浩 志
助 手	稲 田 章 夫
助 手	村 上 新 一
助 手	林 隆 一

(附属病院医療情報部設置準備室併任)

文部技官	新 井 健 二
文部技官	千 原 準

◆ 著 書

1) 山本恵一: 腸閉塞. TODAY'S THERAPY 1986 (今日の治療指針). 351—352, 医学書院, 1986.

2) 上山武史: バージャー病. プロスタグランディンの新しい臨床. 200—203, 現代医療社, 1986.

3) 上山武史: 腹部大動脈瘤. 循環器疾患最新の治療. 400—402, 南江堂, 1986.

4) 富川正樹, 上山武史: 下肢静脈瘤の病態と診断. 外科 Mook, 静脈・リンパ管の外科. 金原出版, 1986.

◆ 原 著

a) 一般・消化器外科に関するもの

1) 矢後 修: 変法 CA'F' 法にて著効を示した乳癌脳転移の 1 例. 基礎と臨床. 20: 225—228, 1986.

2) 佐藤博文, 小島道久, 針金三弥, 高井勝美, 源 利成, 龍村俊樹, 山本恵一: 末端肥大症に合併した乳癌の 1 例. 日本臨床外科医学会誌 47: 311—314, 1986.

3) 佐藤博文, 針金三弥, 源 利成, 福武和子, 龍村俊樹, 山本恵一, 小島道久, 大原裕康, 柴崎洋一, 胃潰瘍瘢痕に起因した隆起性病変の 1 例. Gastroenterological Endoscopy. 28: 782—786, 1986.

4) 佐藤博文, 小島道久, 高井昌彦, 針金三弥, 鈴木亮一, 源 利成, 龍村俊樹, 山本恵一: 多発性内分泌腺腫症 1 型を伴った残胃カルチノイドの 1 例. 癌の臨床. 32: 421—425, 1986.